インカレディベート 参加報告

第 21 期生　加藤 瑞樹

◆インカレディベートとは？

他大学のゼミと，ディベートを繰り広げる場が，インカレディベート大会です。本年度は，昨年度に引き続き，対面での開催となりました。また，マスク着用の義務がなくなり，ディベーター同士の表情が分かるからこそ，昨年度以上に白熱したディベートが行われました。本年度は，小野ゼミ，中央大学の久保ゼミ，関西大学の千葉ゼミ，立命館大学の菊盛ゼミ，東洋大学の竹内ゼミという，5 つのゼミが参加する大会となりました。

◆第 21 期生にとってのディベート

私たち第 21 期生にとって，ディベートの活動は，数ある小野ゼミのコンテンツの一つであることにとどまらず，論理性と論拠の重要性，資料作りや書式，グループワーク，求められるクオリティの高さ，先生と先輩方の指導の手厚さなど，小野ゼミでの多くを教えてくれるものでした。

第 21 期生の多くが，昨年度のオープンゼミで，第 20 期生の先輩方の模擬ディベートを拝見し，白熱した議論を展開する先輩方の姿に憧れを抱いていました。論理的な思考やプレゼン能力を養い，マーケティング課題について真剣に議論することができるディベートというコンテンツを，第 21 期生全員が待ち望みにして春休みを過ごしていました。しかし，私たち第 21 期生は，ディベートという活動の，小野ゼミのコンテンツの大変さを，まだ理解していませんでした。

春休みが終わる 10 日前，突然，春学期の一番初めの本ゼミでディベートを行うことが決まりました。実は，コトラー（基礎文献レポート）が終わり，「第 21 期生みんなで春休み最終日（本ゼミの前日）にディズニーに行こう！」と盛り上がっていたのですが，そんなことはお構いなしに，春休みからディベートの準備が始まりました。第 21 期生にとっての初めてのグループワークであり，チームの全員と馴染めていない状態でしたが，第 20 期生の先輩方にご指導を頂きながら，何とか 3 日程度かけて全力で取り組み，立論まで考え，小野先生に現状を相談する場を頂戴しました。しかし，「もう一度最初から，立論の組み方から指導を受けて考え直してきて。」と言われてしまい，数日の努力は何だったのかという絶望を味わうと共に，小野ゼミの求められるクオリティの高さを実感しました。そこからの 1 週間は，今まで味わったほどのないほどの怒涛の日々でした。チーム内で予定を共有して，外せない用事以外の時間には zoom を繋ぎ，連日連夜，議論や資料作成を進めました。論拠探しや書式設定に苦戦しましたが，第 20 期生の先輩方にも zoom に入っていただきながら，少しずつ形にしていきました。結局，ディズニーの待機列や昼食場所でもパソ

コンを広げ，イクスピアリの閉館時間まで作業を続けましたが，なんとか資料を完成することができました。初回ディベート本番は，全員が緊張していたため，討論がかみ合わないことが多々ありましたが，ほとんどの人が何かしらの役割をもって参加できたため，「第 21 期生は最初からみんなしゃべれるし，キャラクターがあるね。」とお褒めの言葉を頂き，とてもほっとしました。

ディズニーで作業する第 21 期生

それ以降のディベートの活動においては，小野先生，大学院生の王さんと北澤さん，第 20 期生の先輩方からたくさんのご指導を受けながら，理論を重視した立論構成や討論の進め方，見やすくて伝わりやすい資料の作り方を学び，インカレディベート大会に向けた準備を進めました。ゼミ員と同じ授業を受け，授業後は空き教室に集まり，帰宅してからも zoom で作業するなど，多くの時間をゼミに捧げた経験は，決して楽なものではありませんでしたが，とても充実した時間を過ごしていたと思います。

◆インカレディベート大会

本年度は，私たち第 21 期生 9 人が，2 チームに分かれて出場しました。國吉，今野，中越，長谷川，山田の 5 人は，「家庭用ゲーム機メーカーは悪質な高額転売対策として価格を上げるべきか」というテーマで，久保ゼミと第 3 試合で対戦しました。臼井，飯島，伊東，加藤の 4 人は，「国内大手家電メーカーは指定価格制度を導入するべきか」というテーマで，菊盛ゼミと第 4 試合で対戦しました。

どちらのテーマも，第 21 期生にとってはあまり馴染みがなく，状況設定を理解したり，関連する論文や資料を探したりするのにとても苦労しました。指定価格制度や転売対策の文献は，かなり数が限定されており，類似する制度やマーケティング施策を片っ端から調べました。立論を立てては崩れ，資料を作ってはミスが見つかるなど，時間をかければかけるほど沼にはまっていく感覚がありました。それでも，小野先生や大学院生の方々に専門的なアドバイスを頂いたり，第 20 期生の先輩方に細かい設定の仕方を伺ったりしたことで，何とか考えうる最強の立論と資料の完成に至りました。

大会当日は，三田キャンパスの 132 教室に 5 ゼミが集結し，独特の緊張感が走っていました。立論も資料も話し方も想定反駁も，すべて悔いなく準備してきたつもりでしたが，大勢のオーディエンスを前にして堂々と立ち回り，勝ち切ることができるかとても不安でした。著者は，最終試合のまとめの役割を担当したのですが，3 分間すべてのオーディエンスの視線にさらされることを想像して，受験期に発症した過敏性腸症候群を再発するほど緊張していました。

第 3 試合の國吉，今野，中越，長谷川，山田のチームは，全員がとても堂々としていたのが印象的でした。立論が完成したのはかなりぎりぎりでしたが，立論担当の女子三人は，聴衆を圧倒する素晴らしい主張が出来ていたと思います。また，國吉は，フリーディベートにおいてとても粘り強い立派な戦いをしており，一歩も譲らない姿勢が評価され，ベストディベーター—に選出されていました。そして，今野も，聴衆

を引きつけるような感情豊かなまとめを務め上げ，会場全体がどよめいていました。

第 4 試合の臼井，飯島，伊東，加藤のチームは，全員が前のめりになって議論を展開していました。フリーディベートでは，冷静に淡々と相手を潰す飯島，落ち着いた口調で鋭い主張をする伊東，準備してきた想定反駁で勢いよく飛び出る臼井，ダイエー創業者中内功氏に取りつかれた加藤，それぞれが自分のキャラをもって立ち回りました。特に，飯島の勢いはすさまじく，相手の主張を徹底的に反論した姿が評価され，ベストディベーター―に選出されました。また，まとめでは，指定価格制度の 3 本柱である「値崩れしない」，「資金と時間を確保できる」，「安心感を与えるので，消費者に支持される」と書かれた半紙を破る演出も完璧に決まり，大満足でした。

半紙を切る臼井

結果は，両チームとも大差で勝利することができました。負けた後の懇親会の空気がとても気まずいということを先輩からうかがっていたため，本当に安心しました。そして，勝つことができた以上に，第 21 期生全員が主体的に取り組み，成長できたことが，本当に嬉しかったです。

◆最後に

最後になりますが，本大会に至るまでたくさんのご指導ご鞭撻を頂いた，小野晃典先生，大学院生の北澤涼平さん，王珏さん，第 20 期生の先輩方にお礼申し上げます。皆様の熱意のあるご指導のおかげで，第 21 期生全員の成長を実感するディベート活動にすることができました。ありがとうございました。

また，本大会の運営に携わっていただいた，久保知一先生，千葉貴宏先生，菊盛真衣先生，竹内亮介先生にも感謝申し上げます。皆様のご尽力のおかげで，素晴らしい大会にすることができました。ありがとうございました。そして，大会当日に応援に駆けつけて下さった，第 1 期 OB の井川倫士さん，第 9 期 OB の山口健人さん，第 16 期 OG の関口治花さん，第 16 期 OB の柳原慎平さん，第 19 期 OB の喜多村留衣さん，お忙しいところありがとうございました。

5 ゼミ全体集合写真